

これからの経済と社会

1 単元のねらい

公害の防止など環境の保全について、その意義を理解させる活動を通して、対立と合意、効率と公正などに着目させ、環境保全と経済成長を両立させるために国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させることで、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとすることができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	公害の防止など環境の保全について、その意義を理解している。	対立と合意、効率と公正などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けた学習を通して、自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

●学習改善につながる評価 ○評定に用いる評価

評価/時数	1	2	3
知識・技能	●		
思考・判断・表現		○	
主体的に学習に取り組む態度			●

3 単元構造図（全8時間）☆獲得する認識

<p>単元名 これからの経済と社会</p>	<p>単元学習前の生徒の意識</p> <p>経済について学習してきたけれど、経済成長は、社会にどのような影響を与えるのだろう。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 第1時 公害の防止と環境の保全【●知識・技能】 環境保全と経済成長を両立させるために、日本はどんな取り組みをしているのだろう。 持続可能な発展とは、現在だけでなく将来のことも考えることであり、現在と将来のニーズに応えることが大切である。過去の公害のようなことを起こさないようにするために、経済成長と環境保全の両立を考えていく必要がある。政府としてできることは、環境悪化してから対処するだけではなく、環境アセスメントのように事前に環境を守る必要がある。また、企業は現在の資源を有効活用し、省資源・省エネルギーの製品を開発していくことが大切である。また、日本が豊かな社会になるためには、どうしたらよいのだろう。 豊かな社会とは、今まで人々の暮らしを便利するために経済の発展や収入を増やすことが重視されてきたが、現在は収入やお金では手に入れない「暮らしの質」を高めていくことが豊かな生活していくために必要な要素であることが分かった。「地域経済」の活性化のために、開発だけではなく、人々がお金や物に変えられない充実感を求めている面を、観光資源にしていくことが大切 第3時 まとめの活動 コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう 私たちは、経済と密接に関わっていて、生活の維持・向上を市場経済という仕組みが支えている。一方で、経済活動を市場の働きに委ねることが難しい諸問題も多くある。私たちは経済活動を通し、主権者としてその諸課題を解決し、より良い社会の構築に向けて取り組んでいくべきである。 </p>	<p>第1時 公害の防止と環境の保全【●知識・技能】</p> <p>環境保全と経済成長を両立させるために、日本はどんな取り組みをしているのだろう。</p>
	<p>持続可能な発展とは、現在だけでなく将来のことも考えることであり、現在と将来のニーズに応えることが大切である。過去の公害のようなことを起こさないようにするために、経済成長と環境保全の両立を考えていく必要がある。政府としてできることは、環境悪化してから対処するだけではなく、環境アセスメントのように事前に環境を守る必要がある。また、企業は現在の資源を有効活用し、省資源・省エネルギーの製品を開発していくことが大切である。また、日本が豊かな社会になるためには、どうしたらよいのだろう。</p>
	<p>第2時 経済の持続可能性と真の豊かさ 【○甲考・判断・表現】</p> <p>日本が豊かな社会になるためには、どうしたらよいのだろう。</p> <p>豊かな社会とは、今まで人々の暮らしを便利するために経済の発展や収入を増やすことが重視されてきたが、現在は収入やお金では手に入れない「暮らしの質」を高めていくことが豊かな生活していくために必要な要素であることが分かった。「地域経済」の活性化のために、開発だけではなく、人々がお金や物に変えられない充実感を求めている面を、観光資源にしていくことが大切</p>
<p>第3時 まとめの活動 コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう</p> <p>コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう</p> <p>私たちは、経済と密接に関わっていて、生活の維持・向上を市場経済という仕組みが支えている。一方で、経済活動を市場の働きに委ねることが難しい諸問題も多くある。私たちは経済活動を通し、主権者としてその諸課題を解決し、より良い社会の構築に向けて取り組んでいくべきである。</p>	
<p>単元学習後の生徒の意識</p> <p>持続可能な社会を実現するためには、物質的な豊かさだけでなく、暮らしの質も考えなければならない。また、現在の幸せだけでなく、将来の幸せも考えなければならない。そこで、有限である資源の使い方について、一層、考えなければならない。何よりも重要なのは、「持続可能な社会を実現しなければならない。」という国民の意識が大切である。</p>	<p>単元学習後の生徒の意識</p> <p>持続可能な社会を実現するためには、物質的な豊かさだけでなく、暮らしの質も考えなければならない。また、現在の幸せだけでなく、将来の幸せも考えなければならない。そこで、有限である資源の使い方について、一層、考えなければならない。何よりも重要なのは、「持続可能な社会を実現しなければならない。」という国民の意識が大切である。</p>

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料及び指導・援助
1 公害の防止と環境の保全	<p>環境保全と経済成長の両立のためになされている取り組みについて理解することができる。</p> <p>☆公害 ☆住民運動 ☆環境基本法 ☆省資源・省エネルギー ☆リデュース ☆リユース ☆リサイクル ☆3R ☆エシカル消費 ☆循環型社会</p>	<p>1 高度経済成長期に公害が発生し、人々の生活や健康が損なわれたことを確認し、課題化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>環境保全と経済成長を両立させるために、日本はどんな取り組みをしているのだろう。</p> </div> <p>2 「持続可能な発展」を理解する。 ・経済成長をしつつ、将来のために環境保全を行うことができる社会</p> <p>3 環境保全を意識しながらも経済成長するためにはどうするべきか考える。 ・政府は、事前に対策をすることが大切だ。 ・企業は省資源・省エネルギー型の製品を開発することで、有限な資源を大切に使う必要がある。 ・国民1人1人が3Rを大切にして循環型社会を形成していくことが大切である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>経済は、私たちに何をもたらしているのだろう。</p> </div> <p>「持続可能な発展とは、元来だけでなく将来のことも考えることであり、現在と将来のニーズに 대응することが大切である。過去の公害のようなことを起こさないようにするために、経済成長と環境保全の両立を考えていく必要がある。また、企業は現在の資源を有効活用し、省資源・省エネルギーの製品を開発していくことが大切にある。また、国民も循環型社会の意識をもち、3Rを意識して生活するなど、生活の在り方から考えていく必要がある。」</p>	<p>四大公害病の経緯や地球環境問題、それらを防止するための住民や国、地方公共団体、企業の取り組みについて、具体的な事例を通して理解している。 (知識・技能)</p>	<p>◇四大公害裁判 ◇循環型社会の仕組み 「国民」「企業」「政府」の視点に着目できるよう指導する。 「〇〇だけが守れば良いのか。」と問い返しことで、一層、視点を引き出すような指導をする。</p>

<p>2 経済の持続可能性と真の豊かさ</p>	<p>話し合う活動を通して、豊かな社会とは、物質的な豊かさだけでなく、自然や安心・安全、健康などの暮らしの質の豊かさもあることに気づき、例を挙げて自分にとっての豊かな社会を表現することができる。 ☆国内総生産（GDP） ☆地域経済</p>	<p>1 日本の国内総生産と主な国の「より良い暮らし指標」の順位を比較し、課題化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本が豊かな社会になるためには、どうしたらよいのだろう。</p> </div> <p>2 日本の生活に対する満足度と1人当たりの国内総生産の推移から読み取る。 ・国内総生産は全体的に上昇傾向である。しかし、生活満足度は変化しておらず、一定の位置にある。</p> <p>3 物質的な豊かさと暮らしの質を理解する。 ・物質的な豊かさ...マイホーム、稼ぎが多い ・暮らしの質...安心・安全、健康</p> <p>4 「暮らしの質」についてまとめる。 ・暮らしの質は、お金では買えないものだ。</p> <p>5 「豊かな社会」についてまとめる。</p>	<p>これからの社会に必要な「豊かさ」について、多面的・多角的に考察、表現することができる。 (思考・判断・表現)</p>	<p>◇主な国の「より良い暮らし指標」 ◇主な国の一人当たりの国内総生産 国内総生産について、説明できる。 「豊かさ」について、まとめを書くことができる。</p>
<p>3 まとめの活動 コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう</p>	<p>お弁当の企画書を作成する活動を通して、経済活動に対して、主体的に関わっていくことに大切さに気づき、これからの社会に関わろうとすることができる。</p>	<p>1 第4章の導入の活動「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」を振り返り、本時行活動の見通しをもたせ、課題化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう</p> </div> <p>2 教科書 P176 から、コンビニエンスストアに対して、地域の消費者にはどんなニーズがあるのか、資料を参考にウェビングマップなどにまとめる。</p> <p>3 「検討する主なポイント」から、商品開発の方針（コンセプト）をまとめる。</p> <p>4 教科書 P176（4）にグループで取り組む。 ・健康志向のお弁当が今、求められていると思う。</p> <p>5 教科書 P176（5）（6）にグループで取り組み、交流をする。</p> <p>6 教科書 P177「探究課題」について、文章でまとめる。</p>	<p>現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に考え、関わろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>◇教科書 P176～177 ウェビングマップの使い方 導入の活動や既習事項、そして教科書 P174の探求のステップの解決なども活用しながら作業をさせる。</p>
<p>私たちは、経済と密接に関わっていて、生活の維持・向上を市場経済という仕組みが支えている。一方で、経済活動を市場の働きに委ねることが難しい諸問題も多くある。私たちは経済活動を通し、主権者としてその諸課題を解決し、より良い社会の構築に向けて取り組んでいくべきである。</p>				

